

校長室だより (No.2)

令和5年4月25日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

5年生で実施します自然学校は、子どもたちに豊かな人間性、社会性、自律性などをはぐくむために、自然の中での体験活動を中心に社会体験活動、文化体験など、多くの直接体験の機会を設けることとしています。阪神・淡路大震災からの創造的復興を遂げていく過程で、兵庫型「体験教育」をはじめとして、子どもたちが困難にくじけずたくましく生きる力をはぐくむ教育を推進してきました。小学校の「環境体験事業（3年生）」、「自然学校（5年生）」、中学校の「わくわくオーケストラ教室（中一）」、「トライやる・ウィーク（中二）」など、子どもたちが「命の大切さ」や「生きる喜び」を実感できる教育活動や、環境学習・教育などを発達段階に応じて展開しています。



新型コロナウイルス感染症の感染拡大のために、4泊5日の自然学校がここ暫く実施できていませんでした。今年は、5月15日（月）から19日（金）までの1週間実施ができるようです。今年は、何とか多くの活動が実施できますことを願っています。

先にも書きましたが、自然学校では、大きく分けて、5種類の体験ができるように計画されています。1つ目は、「自然体験」です。丹波少年自然の家での散策・グリーンテーリング（山沿いの植物観察を自然の家の敷地内で行うもの）やスノーケルセンターでの磯観察などがこれにあたります。ふだんからよく知っている丹波（山）の自然ですが、草木の名前や葉の形、花卉の数となると大人でも不確かなものです。時間を使ってしっかりふれてほしいと思います。また、磯観察では、ウミウシやヒトデなど見たことのない生き物がたくさんいます。

2つ目は、「文化体験」です。野外炊事などで道具を使ったり、マッチやライターなどを使わないで火をおこす体験をしたりすることです。海の水から塩を作る塩づくりを見学するなど、昔からの知恵や技術を学ぶこともあります。

3つ目は、自然学校そのものですが、集団でのルールを守ったり班や学校の仲間で協力して活動したりするいわゆる「社会体験」です。この集団生活での学びは大きいものと考えます。中学校に向けて、他の4つの学校の子どもたちとともにしっかり身に着けてほしいところです。

4つ目は、「身体を使った体験」です。怪我や病気に気をつけて生活することや、カヌー・カヤック・カッター体験（円山川公苑）などがこれにあたります。自分の身体や船を自分でコントロールする大切な体験です。

最後が「心の体験」です。自然学校を通して、がまんをしたり、失敗して困ったり、成功して喜んだり、感動したりすることです。何よりこれを友達とともに体験することが一番大切だと思います。

今年の自然学校で5年生の子どもたちが何を掴んでくれるのか楽しみにしています。